

『ひろしまレポート』ウェビナー：
核軍縮・不拡散・核セキュリティをめぐる
2023年の動向と2024年の課題・提言

核セキュリティ: 今後の課題

Nuclear Security: Future Issues

日本核物質管理学会 メンター部会幹事
玉井 広史

※ 本稿に掲げた見解は発表者個人のものであり
所属組織を代表するものではありません

❖ 国家＝脅威への対処

- ロシアのウクライナ侵略による敵対者の再定義
- 国を敵対者に想定した核セキュリティ強化

❖ 制度・技術の深化

- 内部脅威への対応
- 科学技術のキャッチアップ

❖ 人材育成

- 核セキュリティネットワークの強化
- 教育機関の裾野の拡張

I 国家＝脅威への対処

- 従来の核セキュリティ上の敵対者は非国家主体（テロリスト等）で、国は守備側
- ロシアのウクライナ侵略後、軍の攻撃・占拠により原子力施設の3Sに重大な懸念が発生
- IAEAによる様々な働きかけにも限界

⇒ 国際社会が今後、実効的な核セキュリティ強化をどのように構築していくか

国を敵対者に想定した核セキュリティ強化
（敵対者の再定義）

II 制度・技術の深化

内部脅威への対応

原子力発電所で発覚したID不正使用：施設の枢要情報に精通した内部脅威者による妨害・破壊行為は重大リスクに進展する恐れ

- ⇒ 未然に防止するための施策が必須
(個人の信頼性確認、2マンルールの徹底等)

科学技術のキャッチアップ

日進月歩の科学技術は、核セキュリティにとって両刃の剣：サイバー、ドローン、AI等を悪用した施設への攻撃は、より容易で深刻な影響

- ⇒ 守備側も最新の科学技術に精通して対抗

III 人材育成

核セキュリティネットワークの強化

核セキュリティ分野の専門家の適正配置と、専門家間の密接なコミュニケーション（政策・技術、規制側・事業者側の横断的なネットワーク）

教育機関の裾野の拡張

OJTのみならず、大学等における若手の核セキュリティ教育を通じた後継者の養成（大学側の受け皿の拡充）

※ 日本核物質管理学会においても、初学者等に対して、講演会、研究会、実習、見学、教材を通じた機会を提供